

専大スポーツ

【専大スポーツ】<https://www.senshu-u.ac.jp/sports/>

No. 413



八戸大会の表彰台で金メダルを掲げる野々村

3000メートル・1年次生 野々村 第1、2戦で連勝

全日本選抜スピードスケート競技会

圧倒的なレース展開

2021年2月まで、高校3年時にジュニア国内4カ所で行われ、順位ポイントで年間王者を決める全日本選抜スピードスケート競技会(旧ジャパンカップ)。第1戦・帯広大会(11月13、15日)、北海道・明治北海道十勝オーバル)の第2戦・八戸大会(11月20、22日)、青森県・YSアリーナ(八戸)の男子3000メートルで、野々村太陽(経営1・白樺学園高)が連続優勝を果たした。

野々村は帯広大会で3分55秒12、八戸大会で3分51秒10を記録。八戸大会では2位を3秒以上引き離す、圧倒的なレース展開だった。

年末には全日本選手権(12月28、30日)が控える。自分の力を試したい。挑戦者らしい思い。機会。挑戦者らしい思い。切ったレースで結果を残し、世界大会の派遣選手に選ばれた。一つずつ課題を克服し、2022年の北京冬季五輪を目指すと意気込みを語った。

また、八戸大会では、マスタートで堀川翼(経営2・白樺学園)が3位に入賞した。(寺田美結・文2)

男子総合 2年ぶり優勝

女子総合 惜しくも2位



総合優勝を果たした男子メンバー(後列)と健闘した女子メンバー

全日本学生ローラースケート選手権大会(11月21、29日、江戸川区・水辺のスポーツガーデン)を争う。男子がスピード1位、ホッケイ2位で2年ぶり総合優勝を達成。女子はスピード1位、ホッケイ3位で総合2位。

◆男子▽スピード部門
賞受賞者は次の通り。

世界トップクラスの選グで、木村香純(経営手が集う卓球の「トリプル」3・四天王寺高)が快進撃を続けています。今シーズンから女子の木下アビエル神奈川に所属し、開幕戦からシング... トリプル3連勝で注目される木村(日本生命レッドエール)

圧巻の開幕3連勝

トリプル初参戦の木村

11月17日の開幕戦では、今年度の全日本チャンピオン・早田ひな選手(日本生命レッドエール)が、1部所属12校によるトーナメント戦が行われた。専大は初戦で東海大に敗れ、5、8位を決める順位決定戦に。青学大戦は西野曜(経営4・近大附属高)が3ポイントシュート3本を含む27得点を挙げ、86・78で勝利。続く日体大戦も西野が24得点と気を吐いたが67・76で敗れ、6位となった。

女子は近藤舞玉主将(経営4・学法律津田学園高)・リアルモード号組が馬場馬術で個人5位。「みんなの成長を感じる大会だった。笑顔で大会最後の試合を終えることができた」と語った。(渡邊未来・文1)

男子団体3位

馬場馬術

関東学生馬術男子競技大会(11月27、29日、神奈川県・津久井馬術競技場)男女ともに障害飛越と馬場馬術の2競技が行われ、男子が馬場馬術の団体で3位に入賞した。

ドリームチェイサー号に騎乗し、個人9位の石川侑真(経営1・宇都宮白楊高)は「満足いく結果ではなかったが、課題が見つかり、いい経験になった」と話した。

57kg級 荒木2位

大学対抗は5位

全日本大学レスリング選手権(11月7、8日、大阪府・東和薬品RACTABドーム)が行われ、57kg級で荒木大貴(経営4・玉名工高)が2位、74kg級で前田明都主将(経営4・花咲徳栄高)、86kg級で内田貴斗(経営2・和歌山北高)、125kg級で庄司樹(経営4・岐阜工高)がそれぞれ3位に入賞した。

順位ポイントによる大学対抗得点では5位だった。荒木は「得意の片足タックルが出せず、調子は良くなかったが、気持ちよく頑張ることができた」と大会を振り返った。2020年を締めくくる全日本選手権(12月17、20日)に向け、「大学生として最後の大会となるので、優勝を目標に、トレーニングに取り組みんでいく」と左から庄司、荒木、前田、内田



全日本大学レスリング選手権(11月7、8日、大阪府・東和薬品RACTABドーム)が行われ、57kg級で荒木大貴(経営4・玉名工高)が2位、74kg級で前田明都主将(経営4・花咲徳栄高)、86kg級で内田貴斗(経営2・和歌山北高)、125kg級で庄司樹(経営4・岐阜工高)がそれぞれ3位に入賞した。

6人が優勝

東日本学生レスリング選手権(11月24、26日、世田谷区・駒沢体育館)で優勝した。

選手権の部では、丸目哲郎(経営3・星城高)がフリースタイル、金子功誠(文4・島原高)がグレコローマンスタイルの敢闘賞を受賞。新人戦では、川原大夢(文2・級・川原(塩澤)

6勝4敗の3位

東都大学野球秋季リーグ戦(2部)11月5日まで、神奈川県・等々力球場ほか

6勝4敗で3位に終わった。3勝を挙げ、チームの主戦へと急成長した菊地史玖(経営2・札幌大谷高)が29回1/3で2失点、防御率0.31と圧巻の投球を披露。防御率が1位となった。

無念 8位に終わる

関東大学ラグビーリーグ戦(10月4日、12月5日、埼玉県・熊谷ラグビー場ほか)

開幕戦で大東大から5トライを奪い、29・19で快勝。幸先良いスタートを切ったが、その後は白星に恵まれず、苦しいリーグ戦となった。最終戦を終えて1勝6敗。関学大と並んだが、直接対決で敗れていた専大が最下位の8位で終わった。※今季特別規定により入れ替え戦は行われない。